

## 愛知県環境影響評価審査会西名古屋火力発電所部会会議録

- 1 日時 平成25年5月10日（金）午後2時から午後2時50分まで
- 2 場所 愛知県自治センター 5階 研修室
- 3 議事
  - (1) 西名古屋火力発電所リフレッシュ計画環境影響評価準備書について
  - (2) その他
- 4 出席者  
委員7名、説明のために出席した職員14名、事業者5名
- 5 傍聴人  
傍聴人2名
- 6 会議内容
  - (1) 開会
  - (2) 議事  
ア 西名古屋火力発電所リフレッシュ計画環境影響評価準備書について
    - ・ 資料1、資料2及び資料3について、事務局から説明があった。

### <質疑応答>

【那須委員】資料1について、事業者として「0」としたいということであればそれでもよいのかもしれないが、住民意見でも硫酸化物やばいじん濃度が全く「0」ではないはずとの意見があった。

これはリスクコミュニケーションの問題であり、住民が「0」という値の表記と「定量下限値未満」又は「何ppm未満」という表記のどちらを信じるかということである。個人的には「0」という数字ではなく、「何ppm未満」というような記載の方が親切であると思う。

私はいろいろなリスク評価に関する仕事をしているが、たとえば、おもちゃへのプラスチック可塑剤の使用規制に関して、国は含有率を「0.1%以下」とした。これは、極めて低い不純物レベルの値であり、使用してはいけないということである。数値の記載の仕方には工夫が必要である。

【事務局】LNG燃料は、実質的に硫酸化物やばいじんの排出がなく、石油や石炭と比較して問題がないレベルであるということを知りやすく伝えるという観点から、「0」という表記も一つの方法と考えられる。

【井上部会長】数字と単位をセットで見ると、「0ppm」は「0.4ppm以下」ととらえることもできる。

また、準備書48ページのばい煙に関する事項の表における硫酸化物排出量は、1号機では、61.2m<sup>3</sup>N/hと小数点第一位までとなっているのに対し、2号

機、3号機では、それぞれ62m<sup>3</sup>N/h、54m<sup>3</sup>N/hとなっている。有効数字については科学的に十分配慮する必要がある。

リスクコミュニケーションをする上では、正確に伝えることを基本にしていただければと思う。

【二宮委員】LNG燃料中には硫黄分がないため、ばい煙中の硫黄酸化物も「0」なのであり、その表記と定量下限値の考え方は別の意味だと考えている。

ばいじんについては、ガス燃焼で排出されることもないわけではないが、それでも「0」としてよいと思う。

燃料中に硫黄分があり、脱硫対策により排出ガス中の硫黄酸化物のレベルを下げた結果として「定量下限値未満」とするのはよいが、燃料中に硫黄分が入っていないのに「定量下限値未満」と表記するのはおかしいという気がする。そういう意味では、事業者の考え方は間違っていないと思う。

【井上部会長】数値の表記方法については、様々な見方がある。施設の稼働に伴う大気質への影響については、窒素酸化物以外は影響がないため、窒素酸化物について正確に記載されていればよいという考え方もある。

【那須委員】資料3の部会報告案の「5 廃棄物等」について、東日本大震災で災害廃棄物の処理が遅れたことにより粉じん等の大気汚染が一時的に悪化したことがあったことを踏まえ、廃棄物の処理について「速やかに」という内容を入れていただきたい。

【事務局】資料3の部会報告案の「5 廃棄物等」について「適正に処理すること」を「適正かつ迅速に処理すること」と修正する。

【井上部会長】ただ今、事務局から説明のあったとおりに修正をしたものを部会報告としてよろしいか。

(委員から意見等はなし)

- ・ 資料3について、事務局から説明のあった箇所の修正を行った上で部会報告とすることで了承された。

イ その他

- ・ 事務局から、特にない旨の発言があった。

(3) 閉会